

南大東島親善訪問（沖縄県南大東村）令和6年9月22～23日 奥山 幸子

沖縄那覇空港からさらに JAL のプロペラ機で東に1時間のところに南大東島がありました。八丈島の玉置半衛門が約120年前に開拓入植したことが縁で、交流は40年ほど前から始まり、毎年（コロナ禍は除く）八丈島から町長、議員（2人）、町職員、太鼓六人会が訪問してきました。村の中学生が八丈の中学校に来て様々な体験をする交流も続いています。今年は、山下則子議員と私が「豊年まつり」に参加して交流を深めてきました。

サトウキビ栽培

一面3mもあるサトウキビ畑が広がる平らな島です（写真）。台風の通過点にある島とも言われ、さぞ台風に悩まされているかと思っていましたが、実際には雨が少ないために時々の台風の雨が恵みになっていると聞き、驚きました。今年はそのおかげで、久々の豊作だったそうです。

海水を真水に

山がなく湧水もないので、飲料・生活用水は海水を真水にして利用していました。その装置は島に数か所あり、飲料水として使用するだけでなく、下水を浄化することにも活用しているとのことでした。

文化の伝承

八丈島の文化と風習に沖縄の文化が混然一体となった独特の文化がここにあります。そのひとつが食文化、「大東寿司」なる島ずしです。マグロやサワラが寿司ダネになっていて島の自慢の味になっていました。もう一つは、江戸相撲です。本格的な神事として伝承されていて、子供たちから大人まで様々な段階の試合が一日かけて行われます。町の職員も相撲の試合に登場し活躍しました。

豊年まつり

最も盛大な年中行事で、村長はじめ老若男女すべての住民が熱をもって参加します。私たち2人も持参した八丈の“はっぴ”を身にまとい、山車の練り歩きに参加しました。2人の町職員は神輿の担ぎ手やけん引役で引っ張りだこでした。夜には各地区の宴会に呼ばれ、翌日の野外舞台の演芸会では六人会が太鼓を披露しました。祭りに積極的に参加することでお互いの島を理解し、交流を深めることができたと思います。

地域を守るのは地域愛

南大東島を訪ねて感じたことは、島に対する強い思いです。伝えられた歴史だけでなく天候・地形・産業に対しても愛情と誇りをもっていることでした。一人一人が役割を認識して責任を果たしていることが、地域のまとまりや活気につながっているのだと思います。

大東島で学んだ精神をこれからの島の暮らしに活かしていきたいと思います。

